

第五回根室市創生有識者会議議事録

日時 平成 27 年 10 月 30 日（金）13 時 00 分
場所 北海道立北方四島交流センター「ニホロ」
2 階交流ホール

1. 開会

（事務局）開会

2. 市長挨拶

本日は、大変お忙しい中、本会議にご出席いただき、まことにありがとうございます。

本年 5 月に第 1 回目の有識者会議を開催いたしましてから、毎月 1 回のペースで開催してきました。

今日は最終の会議でございます。有識者の皆様には、これまで総合戦略にかかる施策提言をはじめ多くの意見をいただき、市ではそれら一つずつ積み重ねてまいりました。その成果品が 7 月 31 日に策定いたしました根室市人口ビジョンであり、また、本日ご審議をいただきます根室市創生総合戦略であります。

改めて申し上げるまでもなく、本日の会議が総合戦略策定に関する集大成としての最後の会議でございます。限られた時間ではありますが、有意義な意見交換をさせていただきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

3. 審議事項 根室市創生総合戦略（最終原案）についての説明

4. 議事

（宇井委員）資料のアンケートの結果にもあります切実な出産、分娩のこと、子どもの医療費の給付のことですが、子どもの医療費給付については順次取り組む（拡充）とあります。どこまでの無料を考えているのか。今の医療費は 3 歳未満までは初診費一部負担のみで無料、6 歳までの小学校入学までは、非課税世帯は初診料のみで他は無料、課税世帯の負担ではどうなるのかについてお伺いしたい。

それから放課後教室の充実とありましたが、現状では今年から 6 年生まで拡充となり申し込み人数が多数あるのですが、スタッフは今までどおりと聞いています。その辺を順次取り組む中でどのように具体化されようとしているのかお聞きしたい。

（事務局）1 点目の子ども医療費の拡充についてですが、現在の助成の範囲は小学生までとなっています。それを拡充するということが、その拡充の範囲は中学生までにするのか、高校生までにするのか、その試算を行っています。現状で数千万円かかっていますが、例えば中学生まで引き上げた場合には、さらに 1 千万円、高校生まで引き上げた場合には、さらに 1 千万円の事業費が必要となってきます。いずれにしても、早い段階でどこまで拡充するのか検討しなければならないと考えております。また、その基準をどこにおくのかということも早い段階で決めなければならないということで、その準備を進めております。

もう 1 点目の放課後教室の関係ですが、これも総合戦略の中で年間述べ 46,000 人の利用者数をあげていますが、現状ではなかなか、定員いっぱいでは隙間がないということですので、今回の総合戦略の中では、1 日、20 人程度の定員の拡充をしたいとしておりますし、現状では土曜日が利用できませんが、そ

の部分の改善も図っていききたいということで検討されております。

医療費の拡充と放課後教室の拡充については、今年度中は難しいのですが、次年度の28年度中には早い段階で提示したいと考えております。

(宇井委員) 医療費に関しては切実な声が多いので、早い段階で具体的な提示をお願いしたいと思えます。放課後教室の件も1日、20人以上の定員の増加は必要と考えておりますが、それを迎い入れるスタッフの拡充も是非並行して行っていただきたいと思えます。

この2点のほかに、なでしこ基金など、若い女性の定着ということで具体化されていますが、65歳以上の世代がヘルパー等の資格を持っていても根室の場合は年齢制限で、ハローワークなどでの紹介もなく働く場がない。資格を持っている人が、短い時間でも働けるような仕組みが北海道の中や道外でも制度化してやっているところもあります。若い人だけでなく、シニア世代でも資格を持っている人たちの働く場の確保ということも多面的に考えていただきたいと思えます。

最後になりますが、児童相談室を設けることは非常に有効なことと思えますが、市教委ではじめている特別支援教育支援員さんとのリンクの充実もお願いしたいと思えます。

(本間委員) 施策体系図を付けていただいて見やすくなったのですが、見出しどころがまだはっきりしないのではないかと。総花的という部分は修正されているが、力点が何かというのを明確にあげた方がいいのではないかと。思えます。

(事務局) 今回の総合戦略の根室市の力点ですが、10ページがまさに根室市のポイントとなる部分です。

特に、「ひと」と「しごと」を呼び込んで安定した雇用、新しい人の流れをつくる」という分野では、市としては介護従事者のUIターンを進めるために新たに返済免除型の修学資金貸付制度を設けることにしています。また、根室で特徴的な北方系のサケマスの養殖の研究開発は、北海道大学の中の産学・地域協働推進機構と具体的に進めていくこととしており、まさに特徴的な施策かと思っています。そのほか、インバウンド観光を取り込むという中で、JTBさんと連携して欧州観光客を対象としたグローバル観光に取り組むというところが特徴的なことなのかなと思っています。

一方、市民生活に密着した面からみると、多子世帯保育料、給食費の無料化、医療費給付の拡充、それから落石地区の方々が利用されている季節保育所、厚床の酪農地区の方々利用されている季節保育所の2つの保育所を通年化することで若い保護者の方々が働きやすい、安心して子どもを育てていける環境づくりといったところが根室市の特徴的な事業かと思っています。

(本間委員) 今の説明で少しは見えてきたのですが、「ひと」「しごと」を呼び込むことの関連事業は、体系図ではすぐに取り組む事業とはなっておらず、順次取り組むようになっており、緊急性が見えない。これをやりたいというものは、すぐに取り組む事業の中に入れて進めていくというのが順当ではないかと思うのですが。

(石井委員) 時間軸の話と重要性の話は全く別の整理をしているということを理解する必要があるのかなと思えます。この計画の中で書き方をどうするかというのは難しいところがありますが、例えば10ページの3つの柱をこの図のように書くと、どれも並列的な、同じ階層にある事業に見えるのですが、やはり地方の雇用、経済、そこを改めてきちんと強化して、そこに若い女性を中心とする若い労働力を呼び込む、そこがないとどう考えても出生率をあげる前提となる人がいないとはじまらない。そのように考えると、「ひと」「しごと」を呼び込むことが、一番力点を置いてやっていくものになっているはずで、それに乗っかる構造として、子育てに関する施策があり、それを支えるものとして市民協働の施策があるのだと思えます。

この「ひと」「しごと」を呼び込むところの事業をみると、介護従事者とは、若い女性を呼び込むこと

の象徴としてあげられているのだと思いますし、サケマス養殖というのは、今の政治環境を含めて狭まっている状況を打破するためのもので、極めて大きな方向転換を目指す事業に位置付けてあり、そこに意味があるのだと思います。観光というのは、根室市の産業構造に新しい道を作りだそうというもので、それぞれが市の根幹を変えるかもしれない大きな軸となっており、それだけ重要性は高いのだと思います。ただ、そういうように読みにくかったということだと思います。表現の方法だと思いますが、市民の方々にも、この3つの方向は、未来を目指す方向だということ、少し時間がかかっても力を入れていくという姿勢をわかるようにしたらいいのかと思います。

(本間委員) もう一つ質問したいのが、サケマス養殖ということですが、ベニザケということだと思うのですが、ベニザケは湖がないとなかなか難しいと思います。サケマス養殖となると、シロザケとなるのでしょうか。

(事務局) 現時点でお答えできる範囲となることをお許しいただければと思うのですが、先般、有識者会議の中の産業分野の方々にお集まりいただいて、北海道大学と意見交換を行いました。

私どもでは、当初北海道大学の水産と一緒に進めていくのかなと思っていたのですが、地方創生として産業づくりまで見据えており、単なる養殖技術といった水産系の技術だけでなく、作ったものを売っていくというマーケティングまでしっかりやっていくというものです。そのため、北海道大学の産学・地域協働推進機構の中の食科学プラットフォームとやっていくというものです。

魚種については、ここに記載のとおり北方系のサケマスということですが、魚種の説明もあつたのですが、ベニザケも含めてやっていくというもので、10年くらいのスパンでやっていくという話がありましたので、市としても一緒に取り組んでいきたいということです。まだ、不確定のところもありますので、十分に説明はできませんが現状ではそういう状況です。

(市長) ベニザケは、ご指摘のとおり、非常に難しいとのこと。ベニザケを直接養殖するのではなく、シロザケの稚魚から育ててベニザケに近くて市場価値も高いケイジというものを育てていくことから始めていってベニザケに近い魚種を作っていくというような形になるとのことです。

(本間委員) ベニザケの養殖というのは明治時代からずっと挑戦してきたが、非常に難しいというのは水産関係者の方々もよくわきまえていることだと思います。ただ、ケイジというのは非常に面白いです、有望だと思います。

(関委員) 今回の最終案は、最初のものに比べて、非常に整理されてわかりやすくなったのではないかと思います。これを読みながら感じたことをお話したいと思います。

ひとつは、すぐに取り組むというのは、ここ5年くらいで取り組むものだと思うのですが、順次取り組むものというのはいつから取り組んでいくのか、非常に書き方が難しかったと思います。ただ、すぐに取り組むものが見えてきた段階で、それに続くものが順次取り組むものとなるのかなと、いくつかのすぐに取り組むものの矢印の先に、順次取り組むものがあるのかなと思いました。順次取り組むものとはいっても、6年後、7年後に突然はじめるというのではなくて、実は今から検討して行って行けるようになったときに、実際の施策として表にでてくるのかなと、そういう見方をすると、時間の流れとともにこの地域がどういう風に動いていくかというその方向性が見いだせるのかなと思いました。

こういう内容の濃い戦略を立てた次には、住民の方が具体的に見れるものにしていくことが大事のかなと思います。実際に子どもを持っている世代の方々とか、これから社会に出る若者とか、これから進路を決める学生であるとか、そういう人たちが、根室市にはこういう方向性がある、こういう制度がある、自分がこうしたいと思った時に、こういう形で根室市の力を借りることができる、こういう

風に自分が動けばこういうことができるのではないかと、そういうように具体的に関わる人たちが見れるものにしていくことが、これから大事になっていくのかなと思いました。

(萩野委員) グローバル観光の今後の推進ですが、2年くらい前に農林水産省と観光庁で農観連携推進協定が結ばれ、来年の農林水産省の政策の中にもインバウンドとどうやって接点を持つかということが取り上げられています。

今回のグローバル観光は、従来の観光のイメージのように単に観光をやっている方たちに影響が及ぶというのではなく、地域の一次産業の方々にどれだけ経済波及効果をもたらされるかというのが新しい観光だと思います。逆に普通の観光をやっても人は来ません。漁業の方たちがやっているクルーズですとか、そういうものが新しい観光に繋がると思いますので、その接点をもたせることが非常に大事です。

それから、もう一つはガイドさんが圧倒的に足りないという問題があります。「ひと」「しごと」ということで仕事を作る上で、どうやってグローバルな観光に従事できる人を根室市で育てていくという発想が必要です。根室市に住んでいる人を育てていくというやり方もありますし、ここでそういう教育機関を作って国内はもちろん、海外からも根室で学んでもらえるようなことがあってもいいのではないかと。事業は観光ですが、移住ですとか、定住に繋がるような波及効果を目指したものにしてもらえればと思います。

(石井委員) 5回の会議に参加させていただき、たくさんの議論をしてきたところですが、最初はどうなるかと思いましたが、ある程度根室らしい特徴が出せる戦略になったのではないかと思います。

体系図のところでは取組のタイミングについての意見もでていましたが、例えば、順次取り組むものとしてあげられている介護従事者の修学資金ですとか、サケマス養殖研究ですとか、グローバル観光などは、実現するのに時間がかかるということだと思います。私は、これでもいいかなと思っていましたが、重点的に取り組むものを順次取り組むものとしてあげてしまうと、政策プライオリティが低いように見えてしまうという面もあると思います。ですので、重要なものはすぐにでも何らかのアクションを起こしていくと表現の方が誤解がなくいいと思います。重点施策は全部すぐに取り組むとして、まだ、やるかどうかわからないというものや、枠組みが決まらないというものを後ろ倒ししてもらった方がいいのではないのでしょうか。

今回の根室市さんの戦略の枠組みには、民間とやっていくものもきちんと盛り込まれていて、ここまで書きこんでいる地域の戦略を私は知りません。いろいろな主体が地域に協力してもらえるという、非常にいい関係ができているのだと思います。

戦略自体は、とりあえず固めてトライ・アンド・エラーしながらローリングしていくというものなので、スタート段階ではこれくらいのラインナップでいいのではないかと、全部当らないかも知れないけど、当たったものをさらにブラッシュアップしていけば、それなりの手ごたえがでてくるのではないかと思います。

まずは、一つ一つ、やれるものからやっていくことに取り組んでもらえればと思います。これからどうモニタリングというか、どう関係者の協力を得ながら進めていくかということが、次のステップに向う上で一番大事だと思います。

今回は、金融庁も金融機関には地方創生に協力しろというスタンスにあります。金融機関の不良債権問題というものと、地域経済というものはリンクしていますので、地域の金融機関が生き残って行く上でも地方創生に本気で取り組まなければならないということだと思います。

そういう部分もどう見直していくかということが重要だと思います。今回の戦略にはそこがきちんと盛り込まれていますので、そこを強みとして取り組んでいただければと思います。

(事務局) ただ今、最終原案に対する意見をいただきましたので、修正したものを後ほど事務局からお送りさせていただきます。

(市長) 最後にご挨拶申し上げます。本日は貴重なご意見、ご提言をいただきましてまことにありがとうございました。委員の皆様のご協力をいただきまして、修正部分もありますが、根室市の創生総合戦略を今日付けで完成させていただきたいと思います。改めて皆様のご協力に心よりお礼申し上げます。

今週 26 日には職員に対して地方創生は、人口ビジョンや総合戦略を策定することが目的ではなく、実行することが大切であり、石井先生の言葉をお借りしたのですが、この地方創生は我々が特に苦手とする失敗したらやり直すというトライ・アンド・エラーの手法をとらないとうまくいかないということで、各部長を先頭に総合戦略の推進方針である「選択と集中」、そして「スピード感」をもって取り組んでほしいと指示をいたしたところであります。

今後は総合戦略の具体的事業を実施していく中で効果等の検証をしていくこととなりますが、有識者の皆様におかれましては、引き続き、進捗状況の審査、審議、検証につきましてご協力のほどお願い申し上げます。

委員の皆様には、今後とも引き続き根室市の地方創生に関わっていただくとともに、ご支援とご協力をお願い申し上げます。御礼の挨拶とさせていただきます。

6 か月の長期間にわたりまして誠にありがとうございました。